

鶏ふん堆肥に尿素を添加して、速効性で低コストなL型肥料を開発しました！

【1 成果の概要】

- (1) 開発した高窒素鶏ふん肥料(高鶏)は、ブロイラー鶏ふん堆肥と尿素を重量比8：2で混合し、ペレット化したものです(写真)。
- (2) 全窒素は11%ですが、当作に効果のある窒素分(有効窒素)は8.8%です。リン酸は3%、カリは2%含み、バランス的にはL型で、既にリン酸やカリが蓄積した圃場での利用に適します。
- (3) ブロードキャスターのほか、畦内部分施用機などの省力機械でも精度良く散布できます。
- (4) 水稻やキャベツの栽培試験の結果、収量は化学肥料(化肥)と同等です(図1)。
- (5) 肥料費は、市販の配合肥料に比べ水稻で約2～5割、キャベツで約4割のコスト低減が図れます(図2)。

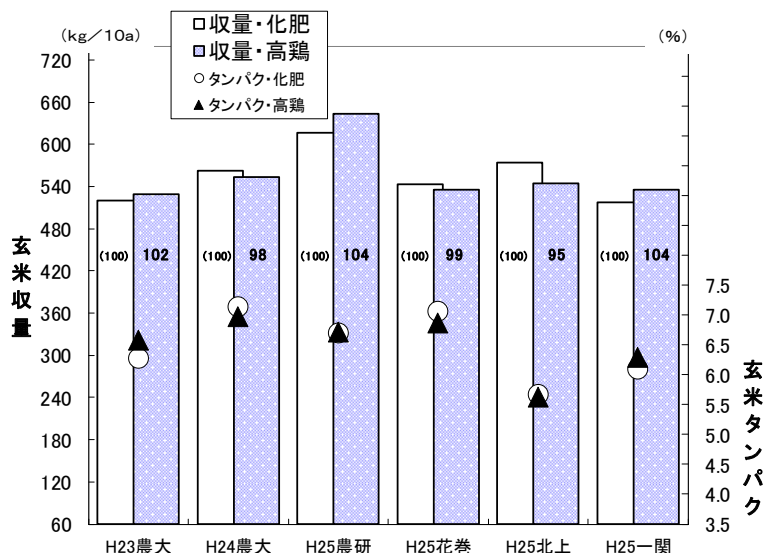


図1 水稻の収量と玄米タンパク (品種：ひとめぼれ)

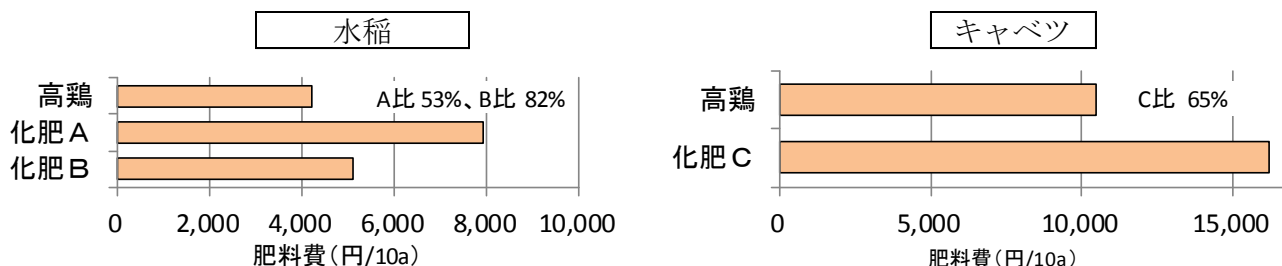


図2 肥料費の比較

【2 留意事項】

- (1) ペレット形状がやや大きいため、水稻の側条施肥機には対応しません。
- (2) 鶏ふん由来の窒素は2割しか含まないため、特別栽培には使えません。
- (3) 鶏ふん臭があるため、品目によってはタネバエ対策が必要です。

【3 その他】

- (1) 本肥料は、(有)三沢地域環境保全組合、プライフーズ(株)と共同で開発し、H26春に市販化されます。包装は、15kg袋、20kg袋、フレコン詰等、いずれも対応します。